

# タマネギべと病の生育初期防除対策 ポイントはこの3つ！

佐賀県農業試験研究センター 病害虫・有機農業研究担当

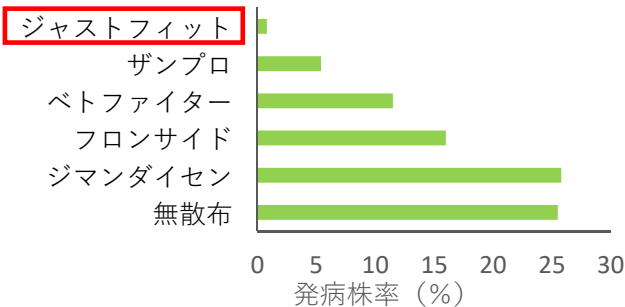
- 伝染方法
  - ・ 土壌中の卵孢子感染による**一次感染（冬）**
  - ・ 発病株上の分生孢子による**二次伝染（春）**



タマネギべと病の一次感染株

- 防除対策  
**生育初期の防除を確実に実施（特に重要）**

## Point 1 ジャストフィットの定植前の散布



定植後の一次感染抑制

定植直前または直後に  
**ジャストフィットフロアブル**  
(上場営農センター2017)

## Point 2 定植後はオロンディスウルトラSCが有効

一次感染株発病抑制	処理時期				累積発病株率 (%)
	定植直前 (11/14)	定植 1週間後 (11/21)	定植 2週間後 (11/29)	定植 3週間後 (12/5)	
定植2週間後に <b>オロンディスウルトラSC</b>	ジャストフィット	-	オロンディス	-	0.0
		オロンディス	オロンディス	-	0.0
		-	オロンディス	オロンディス	0.0
		-	ザンプロ	-	2.1
		-	-	-	5.0

## Point 3 暖冬年で二次伝染が早まる場合はピシロックを散布

薬剤散布時期		3/17時点 発病株率
2/11	2/21	
ピシロック	ピシロック	1.7
-	ピシロック	8.3
フロンサイド	ジマンダイセン	4.2
-	-	10.3

二次伝染が早期化（2月中旬）

曇雨天が続く前の**ピシロックフロアブル**の予防散布が効果的